令和６年度

認知症サポート医の活動等に関する実態調査について

島根県健康福祉部　高齢者福祉課
地域包括ケア推進室

「しまねの地域包括ケア」ポータルサイト開設

QRコード
携帯電話で
ホームページに
アクセスできます。

島根県内の認知症サポート医（ ※ 敬称略 ）

R6.6.1現在 134名（累計養成数162名）

※ 市町村名は所属医療機関所在地

隠岐の島町(3)
有田茂夫・加藤一朗・王 紅欣 〈隠岐病院〉

西ノ島町(1)
福田瑶子 〈隠岐島前病院〉

海士町(1)
木田川利行 〈海士診療所〉

出雲市(25)
高橋幸男 〈エスポアール出雲クリニック〉
深田倍行 〈深田医院〉
土谷治久 〈佐田診療所〉
安部哲史・長濱道治・長井篤・金井由貴枝・岩佐憲一 〈島根大学医学部附属病院〉
石橋和樹・小田川誠治 〈島根県立中央病院〉
白澤 明・濱田智津子 〈出雲総合医療センター〉
山本大介・小黒浩明 〈出雲徳洲会病院〉
金森 隆 〈斐川生協病院〉
河野公範 〈海星病院〉
津村弘人 〈つむらファミリークリニック〉
石川 厚 〈石川脳神経内科医院〉
豊田元哉 〈とよだ内科頭痛クリニック〉
高尾 碧 〈こころの医療センター〉
松崎太志 〈まつざきクリニック〉
小林祥也 〈小林病院〉
園山隆之 〈園山医院〉
古瀬祥之 〈古瀬医院〉
朝山康祐 〈あさやま内科クリニック〉

松江市(35)
櫻井照久・福田賢司・高村睦代・石川美保 〈こなんホスピタル〉
細田眞司 〈こころの診療所細田ｸﾘﾆｯｸ〉
松嶋永治 〈まつしま脳神経内科ｸﾘﾆｯｸ〉
柴田昌洋・百瀬 勇・宮岡 剛・清水予旨子〈松江青葉病院〉
吉岡志津枝〈吉岡医院〉
杉谷美代子〈いんべ杉谷内科小児科醫院〉
内藤 篤 〈松江記念病院〉
萬代恵治 〈松江刑務所〉
松本和也 〈入澤クリニック〉
下山良二・中島健二・古和久典・深田育代 〈松江医療センター〉
野津立秋 〈野津医院〉
泉 明夫 〈泉胃腸科医院〉
伊達伸也 〈東部島根医療福祉センター〉
坂之上一史・田野俊平・伊元祐貴 〈鹿島病院〉
岡崎哲也 〈八雲病院〉
戸田稔子 〈松江生協病院〉
佐々木亮 〈介護老人保健施設もちだの郷〉
田中康貴 〈たなか穏神経内科〉
笠木重人 〈笠木医院〉
小松和久 〈小松クリニック〉
奥田 亮 〈奥田クリニック〉
山田顕士 〈松江市国民健康保険来待診療所〉
津森 洋 〈津森医院〉
伊藤健一 〈伊藤医院〉

浜田市(11)
中村慎一 〈中村医院〉
田中新一 〈心療内科田中クリニック〉
彌重博巳 〈彌重内科眼科医院〉
沖田浩一 〈沖田内科医院〉
松本貴久・荒木正人 〈西川病院〉
北條宣政・井上幸哉 〈浜田医療センター〉
笠田 守 〈笠田医院〉
小池昌弘 〈小池医院〉
佐藤 誠 〈浜田市国民健康保険弥栄診療所〉

江津市(5)
中澤芳夫・堀江 裕 〈済生会江津総合病院〉
山崎一成 〈山崎病院〉
花田有二 〈花田医院〉
花田昌也 〈花田クリニック〉

益田市(11)
坪内 健・藤木 僚・松田泰行 〈松ヶ丘病院〉
金島新一・金島研大 〈金島胃腸科外科〉
大森治樹 〈石見クリニック〉
篠崎克也 〈さくらクリニック〉
井上貴雄 〈あすかクリニック〉
松本祐二 〈松本医院〉
永瀬聡士 〈永瀬脳外科内科〉
長沼 清 〈万葉コトノ葉クリニック〉

津和野町(2)
木谷光博・飯島献一 〈津和野共存病院〉

吉賀町(3)
小笠原康二〈小笠原医院〉
松浦寿一 〈松浦内科胃腸科〉
鬼山佳祐 〈よしか病院〉

安来市(14)
杉原徳郎 〈杉原クリニック〉
野坂啓介 〈野坂医院〉
片山征爾・竹下久由
江原真理子・小村文明
角 暁美・新宮左知子
河崎雄司・新田則之
妹尾晴夫 〈安来第一病院〉
池田啓孝 〈安来市立病院〉

大田市(7)
岡田和悟 〈大田シルバーｸﾘﾆｯｸ〉
梅枝伸行・山口拓也 〈うめがえ内科ｸﾘﾆｯｸ〉
安田英彰・笠木真人 〈石東病院〉
福田理子 〈こまめクリニック〉
山形真吾 〈大田総合医育成センター〉

川本町(1)
加藤節司 〈加藤病院〉

美郷町(1)
秦 憲明 〈秦クリニック〉

邑南町(5)
河野圭一 〈河野医院〉
高橋亮吏 〈星ヶ丘クリニック〉
周藤由紀美〈三笠記念クリニック〉
酒井和久・上田智広 〈邑智病院〉

雲南市(6)
今岡大輔 〈奥出雲コスモ病院〉
前木奈津美・大谷 順・永瀬正樹〈雲南市立病院〉
三代知子 〈和田医院〉
山根孝文 〈山根医院〉

奥出雲町(2)
遠藤健史・重栖慎典 〈町立奥出雲病院〉

飯南町(1)
松本賢治 〈飯南病院〉

※ 認知症サポート医への相談や協力依頼など、本来の目的以外での名簿の使用はご遠慮ください

調査概要

１．調査時期　令和６年６～７月

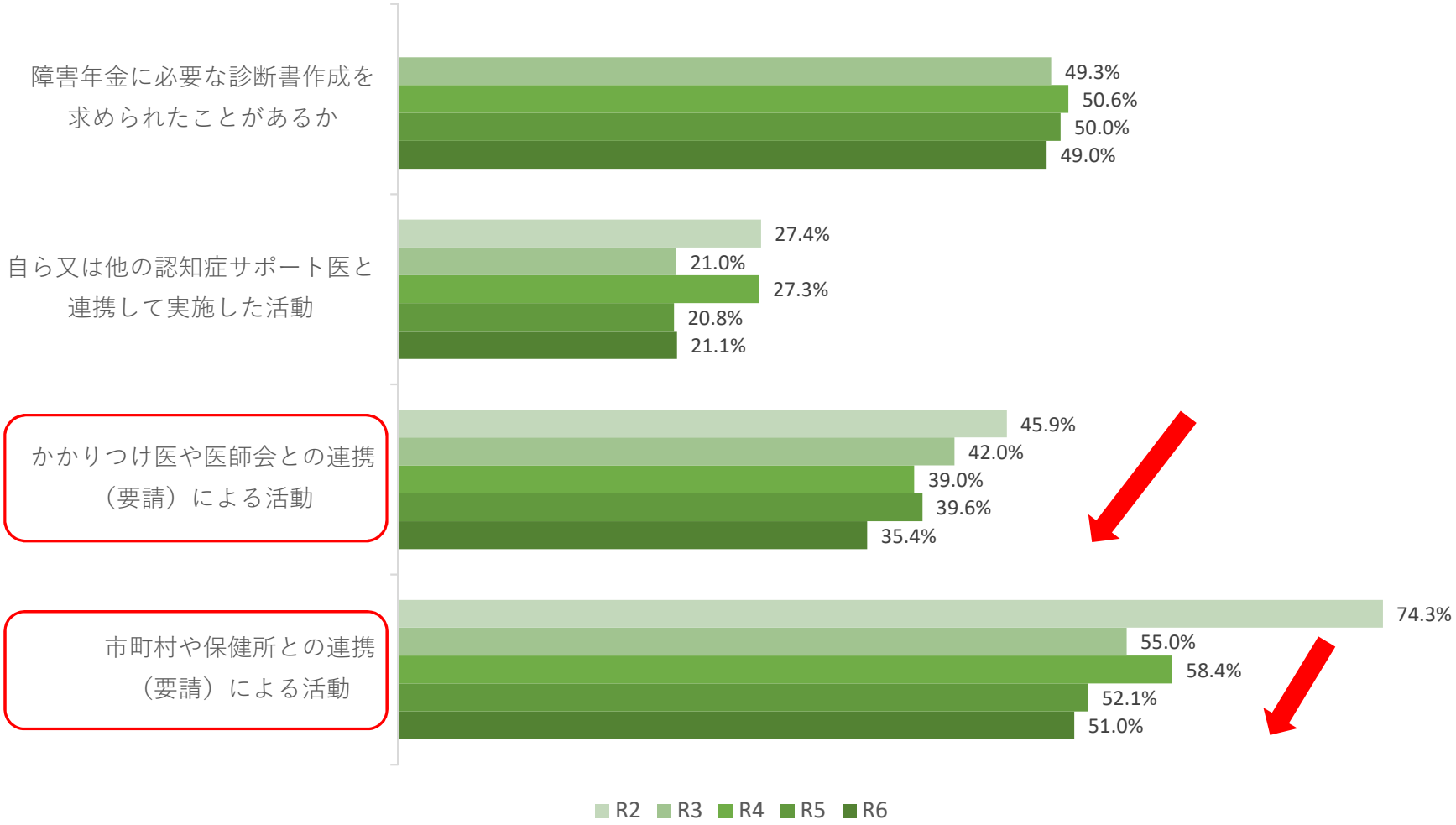
２．調査方法　Web調査

３．対象者　　１３４名（県内サポート医数）

４．回答者　　９６名（回答率：69.1%）

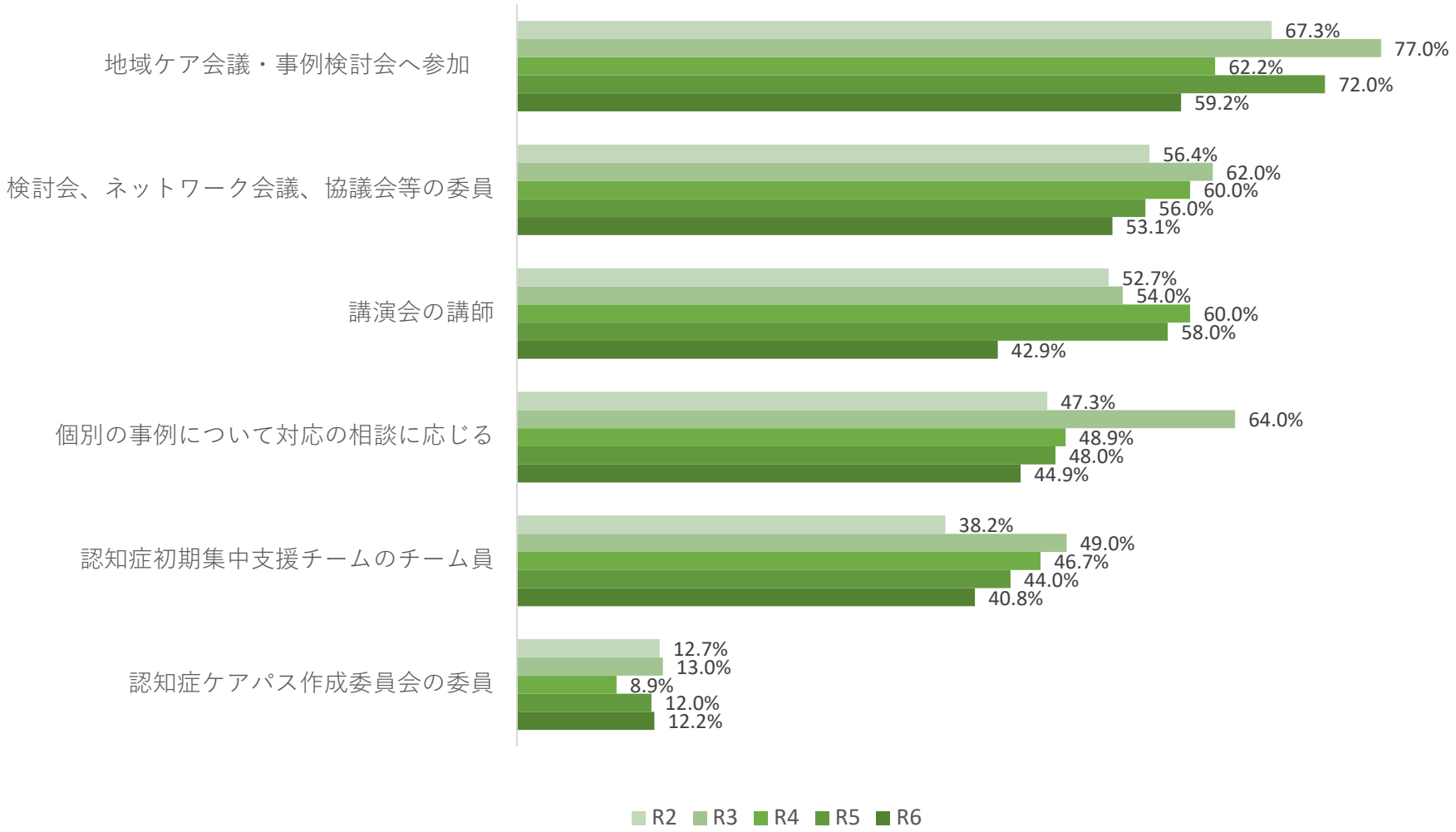
結果１　これまでの活動について

活動したことがある人の割合



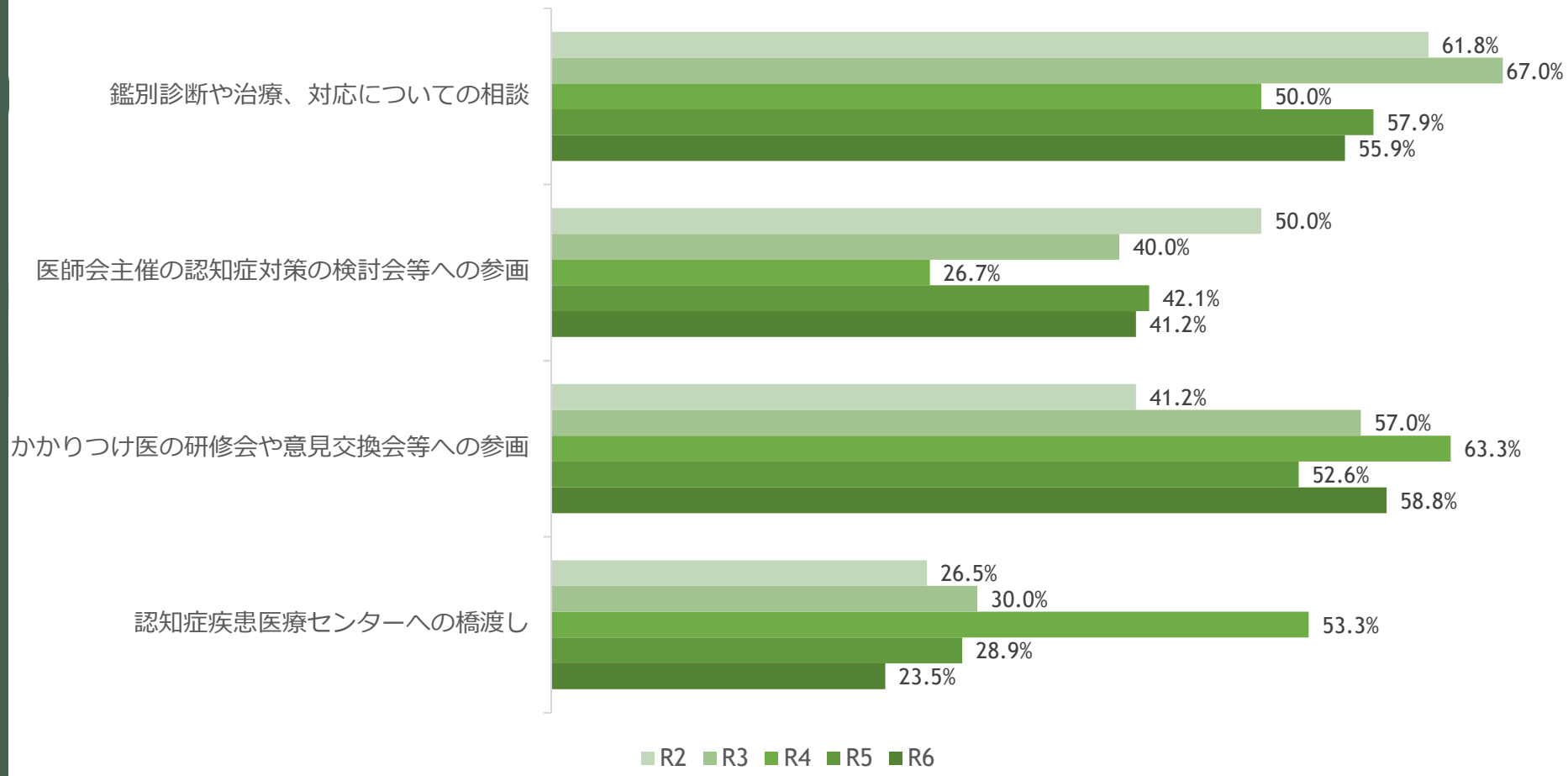
結果１　これまでの活動について

市町村や保健所との連携（要請）による活動



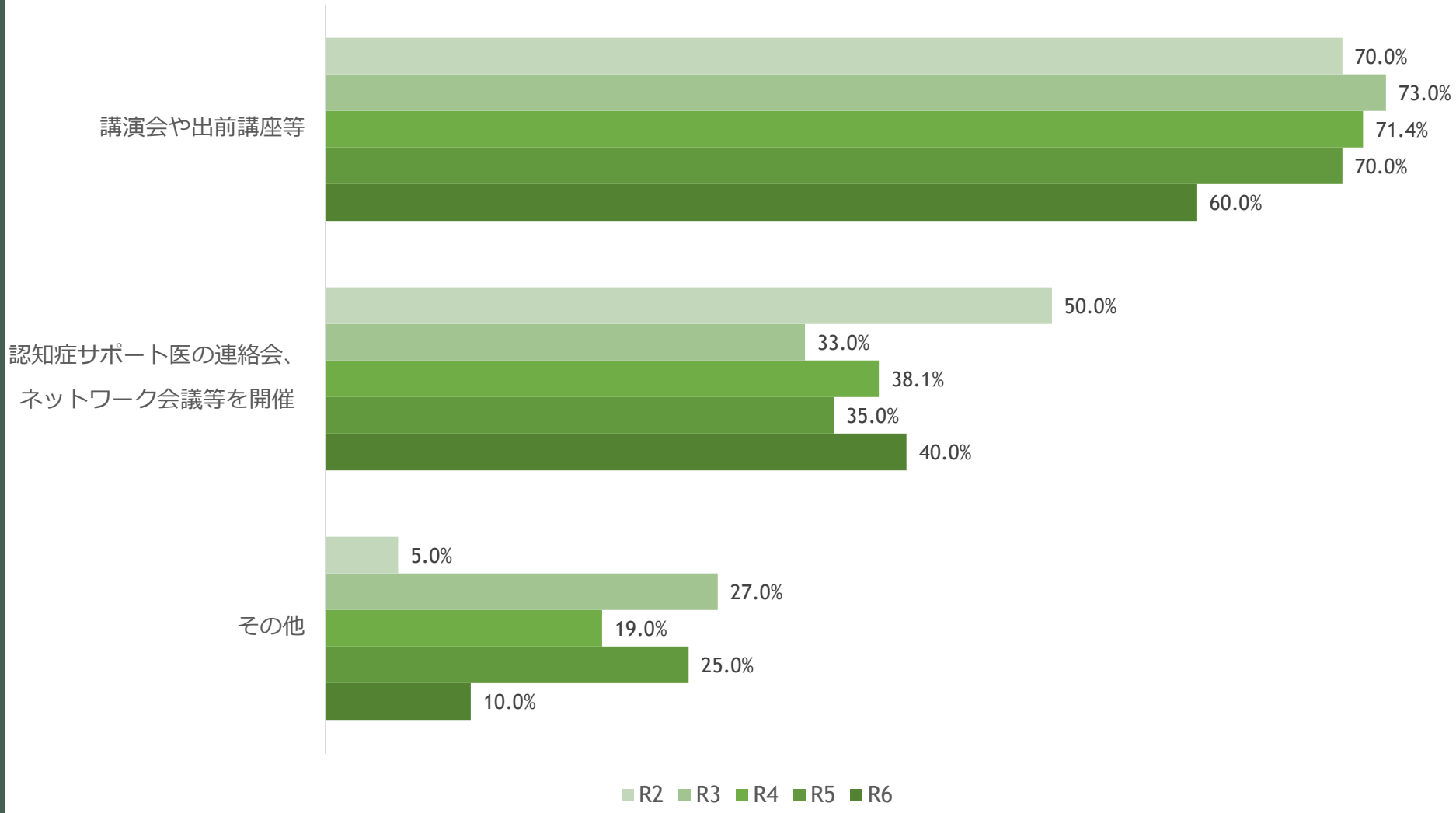
結果１　これまでの活動について

かかりつけ医や医師会との連携（要請）による活動



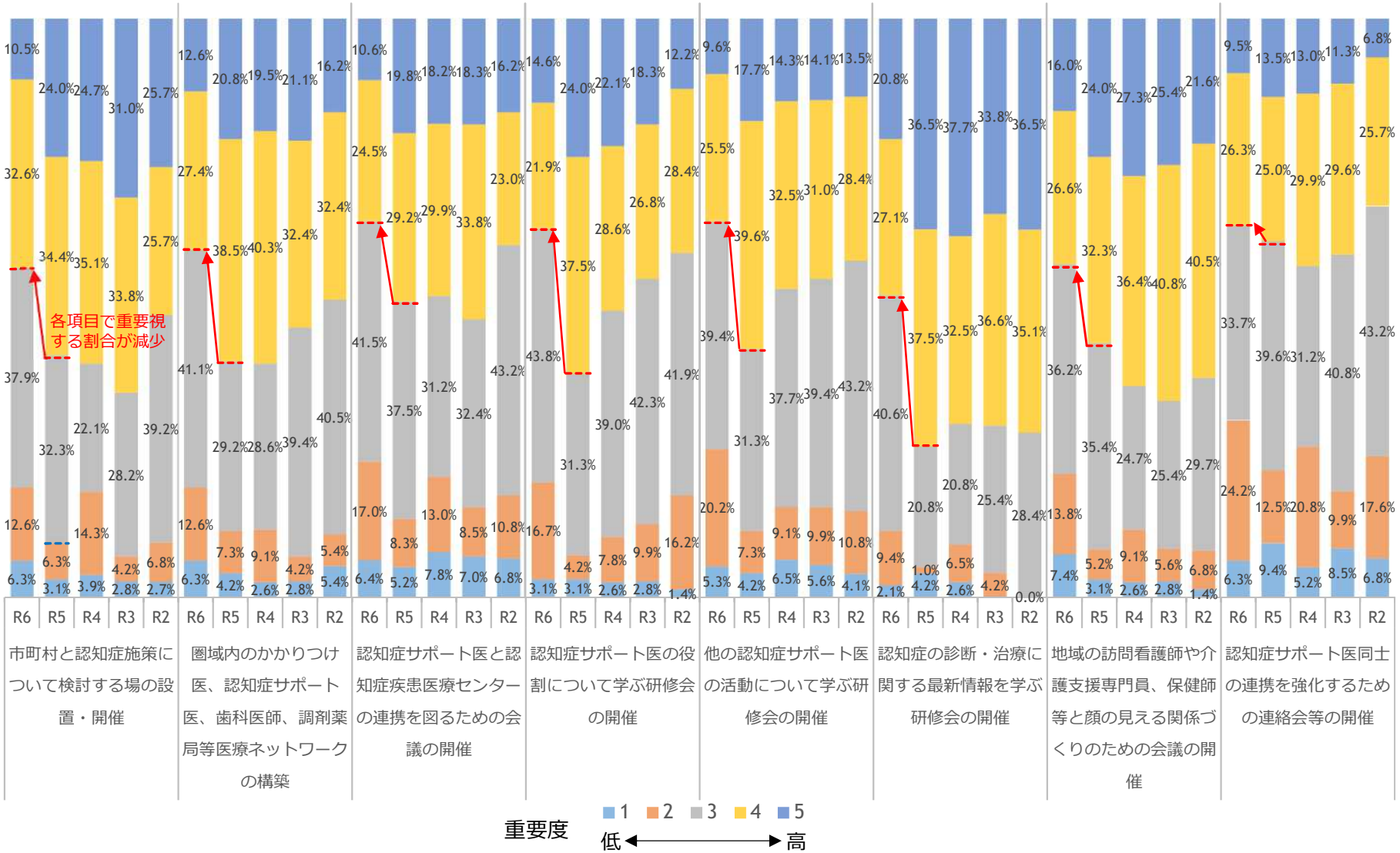
結果１　これまでの活動について

自ら又は他の認知症サポート医と連携で実施した活動



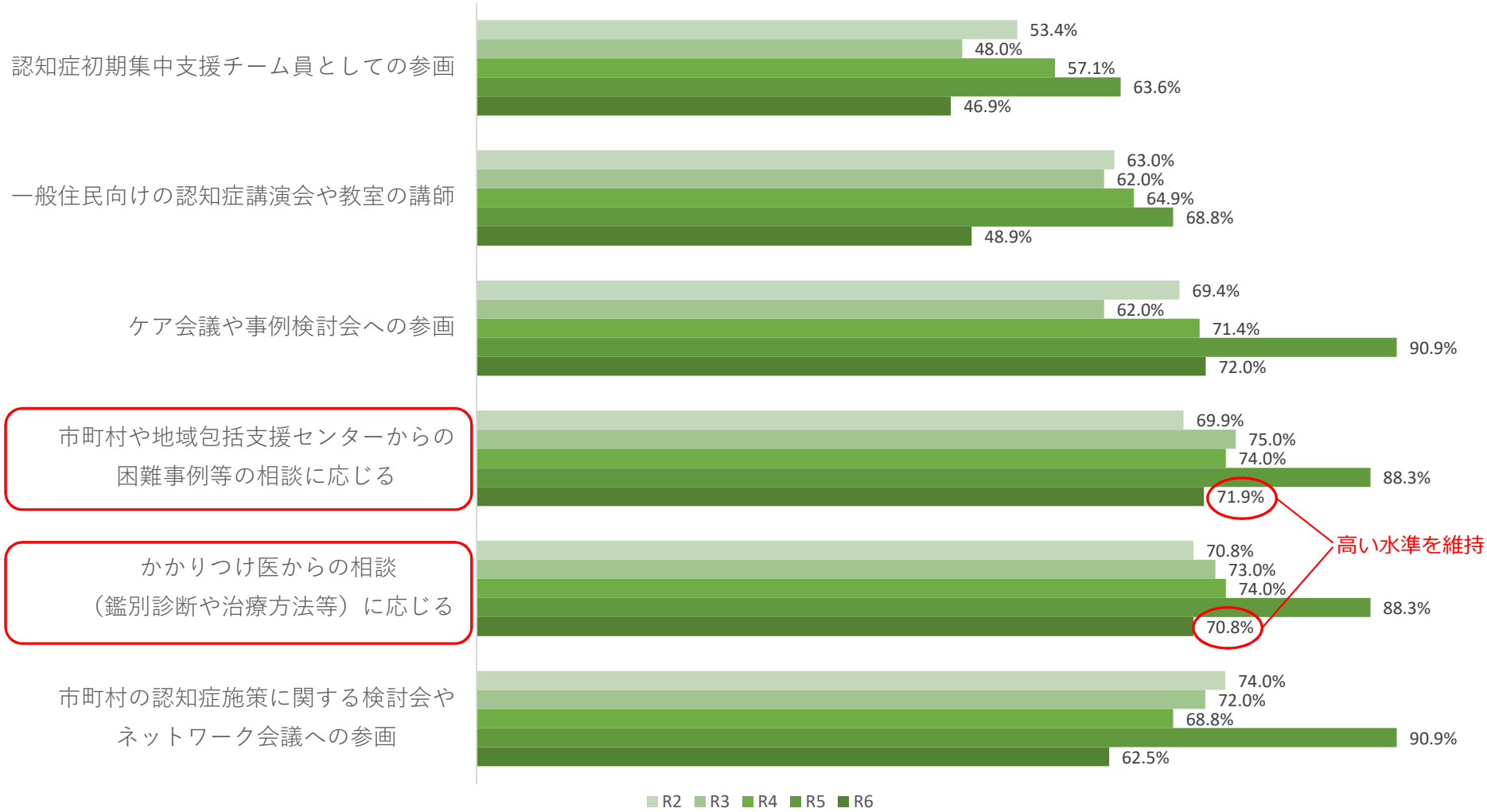
結果２　今後の活動について

今後活動する上で必要と思う事柄



結果２　今後の活動について

今後活動したい・できると思う人



結果２　今後の活動について

※ 活動が難しいと思う主な理由・・・

- ▶ 日々の業務が忙しく、活動するための時間を確保できない
- ▶ 専門的な知識や経験が不足している
- ▶ 既に他の専門医が対応済みである、専門医の対応が望ましい

まとめ

活動内容

- 「かかりつけ医、医師会との連携（要請）」及び「市町村や保健所との連携（要請）」による活動割合が減少。

サポート医として活動する上で今後必要なこと

- 重要視する割合が最も高いのは「認知症の診断・治療に関する最新情報を学ぶ研修会の開催」。
- 一方で、全ての項目 において、重要視する割合が減少。
  ⇒ どういった取組を必要としているか把握する必要性あり。

今後 “したい・できる” 活動

- サポート医に主に期待される役割である「市町村や地域包括支援センターからの困難事例等の相談」や「かかりつけ医からの相談」については、７割以上が「活動したい・できる」と回答。

今後に向けて

連携体制の強化

- **地域連携の推進（県を中心とした）**
  - **かかりつけ医や県民に向けた制度周知**
    ⇒　かかりつけ医等とサポート医の連携促進
- **圏域・市町村毎の連携体制の構築（市町村・保健所を中心とした）**
  - **事例検討会、ネットワーク会議等の開催**
    ⇒　地域の関係者との連携強化

サポート医の環境整備・資質向上

- **認知症サポート医向け研修会の開催（県・圏域毎）**
  - **認知症研修会、認知症サポート医フォローアップ研修等の開催**
    ⇒　認知症サポート医のスキルアップ（知識・専門性）
    ⇒　認知症サポート医の役割理解

その他

- **サポート医が活動するための取組**
  - **サポート医が活動するにあたって、どういった取組等を必要としているのか、本調査や各種会議等の場で把握**